

日本山岳遺産基金通信



日本山岳遺産基金

JAPAN MOUNTAINS HERITAGE FUND

いつも日本山岳遺産基金の活動にあたたかいご支援をくださいまして、厚く御礼申し上げます。「日本山岳遺産基金通信」第23号をお届けいたします。

本年度の日本山岳遺産の認定に際しては、8月末の締め切りまでに7つの団体から申請を受け付け、アドバイザリーボードの助言のもと事務局で検討した結果、本年度は1地域／団体を新たに日本山岳遺産に認定しました。

2月には熊本県で九州の認定団体6団体の関係者のみなさまが一堂に会し、共通の課題について意見を交わすシンポジウムを開催し、初めて認定団体さま同士がつながる機会をつくることができました。このような意見交換の場を引き続き設けてまいります。

来年2月には日本山岳遺産サミットを東京・神田神保町で開催し、今年度の認定団体の紹介や、当基金の年間の活動報告を予定しておりますので、ぜひ、ご出席いただけましたら幸いです。

日本山岳遺産基金 事務局長 永田 恵

2025年度日本山岳遺産とこれまでの認定地

- ① 櫛形山(山梨県) / 櫛形山ネットワーク
 - ② 小金沢シオジの森(山梨県) / シオジ森の学校
 - ③ 乙女高原(山梨県) / 乙女高原ファンクラブ
 - ④ 石鎚山(愛媛県) / 久万高原町
 - ⑤ 早池峰山(岩手県) / 早池峰にゴミは似合わない実行委員会
 - ⑥ 九州中央山地五家荘エリア(熊本県)
／泉・五家荘登山道整備プロジェクト
 - ⑦ 夕張岳(北海道) / ユウバリコザクラの会
 - ⑧ 七時雨山(岩手県) / 七時雨ロマンの会
 - ⑨ 臥龍山(広島県) / 芸北自然保護レンジャー
 - ⑩ アポイ岳(北海道) / アポイ岳ファンクラブ
 - ⑪ 金華山(宮城県) / 特定非営利活動法人FIRST ASCENT JAPAN.
 - ⑫ 船窓岳(長野県・富山県) / 船窓小屋・道しるべの会
 - ⑬ 大台ヶ原大杉谷(三重県) / 公益社団法人大杉谷登山センター
 - ⑭ 吾妻山(福島県) / 吾妻山自然俱楽部
 - ⑮ 錐ノ峰(長野県) / 長野県大町岳陽高等学校山岳部
 - ⑯ 徳本峠(長野県) / 古道・徳本峠を守る人々
 - ⑰ 南木曾岳(長野県) / 南木曾山土会
 - ⑱ 三嶺(高知県・徳島県) / 三嶺の森をまもるみんなの会
 - ⑲ 美瑛富士(北海道) / 山のトレイを考える会
 - ⑳ 嘉穂アルプス(福岡県) / 嘉穂三山愛会
 - ㉑ 二ツ森(秋田県) / 一般社団法人白神コミュニケーションズ
 - ㉒ 岩手山(岩手県) / 岩手山地区パークボランティア連絡協議会
 - ㉓ 三ツ峠(山梨県) / 三ツ峠ネットワーク
 - ㉔ 霧ヶ峰(長野県) / 霧ヶ峰草原再生協議会
 - ㉕ 入笠山(長野県) / 入笠ボランティア協会
 - ㉖ 伯耆大山(鳥取県) / グラウンドワーク大山蒜山
 - ㉗ 大雪山・黒岳(北海道) / 一般社団法人大雪山・山守隊
 - ㉘ トムラウシ山(北海道) / 新得山岳会
 - ㉙ 飯豊山(山形県・新潟県・福島県)
／特定非営利活動法人飯豊朝日を愛する会
 - ㉚ 鹿沼市・岩山(栃木県) / 機動パトロール隊
 - ㉛ 高田大岳(青森県) / 十和田山岳振興協議会
 - ㉜ 大笠山(富山県) / 五箇山自然文化研究会
 - ㉝ 伊吹山(滋賀県・岐阜県)
／伊吹山を守る自然再生協議会
 - ㉞ 比叡山・比良山地(滋賀県・京都府)
／比良比叡トレイン協議会
 - ㉞ 脊振山系(福岡県・佐賀県) / 脊振の自然を愛する会
 - ㉞ 銀山(千葉県) / 金谷ストーンコミュニティー
 - ㉞ 信越トレイン(長野県・新潟県)
／特定非営利活動法人信越トレインクラブ
- ①～㉞は2024年度までに認定の日本山岳遺産



2025年度 日本山岳遺産認定地・認定団体の紹介

北海道 雄鉢岳

認定団体 八雲ワンダーフォーゲル

山の概要 「道南のグランドジョラス」と称される雄鉢岳(999m)は、荘厳な岩壁が特徴の双耳峰で、山頂からは太平洋と日本海を眺めることができます。深い谷間の激しく美しい沢や、高低差100mにおよぶ垂直に近い岩壁のルンゼなど、ワイルドなコースが登山者に支持されています。アイヌ語で「カムイ・エ・ロシキ(神々が群立するところ)」と呼ばれた神聖な場所でもあり、登山口付近にはかつて良質な「桜マンガン」を産出した鉱山集落跡が残ります。自然、文化、産業遺産が融合した八雲町の貴重な里山です。

認定団体の概要 1966年4月設立。発足後3年かけて雄鉢岳頂上までの登山道を開削・整備し、以来、町民登山大会の実施や登山

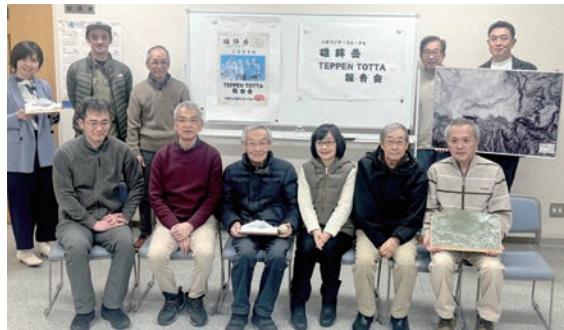


雄鉢岳

道の整備を続けてきました。登山口付近の鉱山集落とは開削当時から深い交流があり、閉山後、その縁で郵便局として使われていた建物を山小屋として借り受け



クマザサを刈り、登山道を整備する



メンバーのみなさん

け、雪下ろしなどの維持管理や予約受付を行っています。

認定理由 長年にわたり登山道整備や山小屋の管理を行い、安全登山啓発に寄与している点を評価。

ご報告 九州の山岳について考えるシンポジウム開催

2月17日、熊本県八代市で「森林活用」「問題共有」「次世代への継承」をテーマに九州の山岳について考えるシンポジウム（主催 一般社団法人五家荘地域プロジェクト、共催 日本山岳遺産基金）を開催し、九州エリアの日本山岳遺産認定団体6団体が参加しました。

各団体からは森林環境を有効活用する取り組みや、防鹿柵による森林環境の保全、登山道の落書きなどの問題点を共有。また、登山道のテープが個人により過度に取り付け、取り外しが起きている地域では、県をまたいだ共通のルール作りの必要性について提言がありました。

このほか、地元の山を守るために行政、学生、地元企業とのネットワーク構築の事例や、若い人たちへ地域の自然の素晴らしさを継承する取り組みについてなど、発表を行いました。

本シンポジウムは、日本山岳遺産の認定団体同士が意見交換をする初めての機会となりました。これからも団体同士の交流が生まれるような取り組みを続けてまいります。



認定団体は熊本県、福岡県、長崎県、宮崎県、大分県より参加があった

告知

2025年度山岳遺産サミットはやまとけいこ氏の特別公演

2026年2月14日(土)に「日本山岳遺産サミット」を東京・神田神保町で開催いたします。当基金の一年間の活動をご報告するとともに、2025年度の日本山岳遺産認定地・認定団体を発表します。認定団体の代表者にご登壇の上、活動内容や課題などについてお話をいただきます。加えて、今回は2024年度の認定地・認定団体の本年の活動報告を実施予定です。また本年は山と旅のイラストレーター、やまとけいこ氏による特別講演を行います。参加希望の方は日本山岳遺産基金の公式ウェブサイトよりご応募ください。



特別講演を行うやまとけいこ氏の著書

2024年度認定団体から活動報告をいただきました

■ 幌尻岳（北海道） 認定団体 一般社団法人平取町山岳会 助成金額 40万円

一般社団法人平取町山岳会では、幌尻岳額平川コースを拠点に活動していますが、本年度も助成金を活用し登山道パトロールの濃密化や幌尻山荘の維持管理を主たる事業として実施しました。今年も登山客のみなさまが安全・快適に幌尻岳の山頂を踏めるお手伝いができたと考えております。不調により稼働していなかった幌尻山荘の水力発電が今年復旧したことや、山小屋Wi-Fiの開設など幌尻山荘内での快適性の向上に加えて、昨年度から実施しているココヘリ加入の推奨などを実施しました。また、自然災害や重大事故もなく、比較的の平穏な1年となりました。登山シーズンを終えた10月1日に幌尻岳の神々に無事に登山が終わったことを感謝しました。



山じまいでの神々に祈りをささげる儀式（カムイノミ）

■ 北岳（山梨県） 認定団体 北岳、山岳医療ボランティア 助成金額 49万5千円

夏山シーズンの現地活動を無事終わることができました。7月から救助案件が多い中の活動開始で、ドキドキでした。パトロールや小屋内の活動に必要な物品購入などに助成金を使用させていただきました。今年は小屋内のポスターを「登山中の塩分の取り方について」へ更新し、低ナトリウム血症予防を発信したり、SNSを使用して現地からリアルタイムに登山中の注意喚起を発信しました。また、今年は下山中の転倒滑落事故が目立ちました。啓発活動の大切さを痛感しています。今後、SNSでの発信や関係団体への働きかけなどを行い安全登山に尽力していきます。



昭和医科大学北岳診療部での「登山道の傷病者対応」講習会風景

■ 上山高原（兵庫県）

認定団体 特定非営利活動法人 上山高原エコミュージアム 助成金額 40万円

助成金を活用して、ススキ草原の復元エリアをシカの食害から守るため、防鹿柵の設置を行っています。6月～12月まで月1回、のべ24人で融雪後の防鹿柵の再設置とメンテナンス、パトロールによるシカのモニタリングを実施し、育成初期の若いススキが多いエリアを守っています。防鹿柵内は植生の回復が進み、ススキ草原の復元エリアはついに44haを超えました。上山高原や麓の奥八田の集落などをまるごと生きた博物館ととらえ、自然と共生してきた地域の暮らしに息づく知恵を学び、活かし、次代に継承していきます。



防鹿柵設置作業の様子

新企画

『山と溪谷』95周年特別記事内に 日本山岳遺産基金の取り組みを掲載

月刊誌『山と溪谷』2025年10月号の特別記事に日本山岳遺産基金の取り組みを掲載しました。この記事は山と溪谷社創業95周年を記念したもので、山の環境保全をテーマにしたものです。環境に配慮した活動をしている企業・団体の事例を通して、山の保全の具体的な取り組みについて紹介しました。来年以降はさらに内容を拡充して続けてまいります。



連載

「日本山岳遺産の横顔」 山と溪谷オンラインで公開中



月刊誌『山と溪谷』にて2021年1月号から始まった連載「日本山岳遺産の横顔」は24年10月号で終了しました。連載では23年度までに日本山岳遺産に認定された48の山岳エリアと活動団体について紹介しました。山と溪谷オンラインでアーカイブをご覧いただけます（右上の二次元コードからアクセスできます）。24年度以降の認定団体については今後紹介予定です。



「北アルプス安全登山アピール」2025年も実施

7月12日に「北アルプス安全登山アピール2025」が開催されました。長野県、富山県、岐阜県の山岳遭難救助隊や自治体で構成する北アルプス三県合同山岳遭難防止対策連絡会議の主催で、当基金は後援しています。当日は夏山シーズンに注意したい熱中症やトレーニングについて解説され、東京・神田神保町の会場では約50人、オンラインでは約220人が参加。今年は会場で、遭難救助隊にまつわる書籍販売や隊員への相談所ブースを設け、にぎわいを見せました。



北アルプス三県合同山岳遭難防止対策連絡会議の方々

バリューブックス「チャリボン」のメルマガで紹介

株式会社バリューブックスが運営する寄付サイト「チャリボン」は、本の買取金額を社会課題に取り組むNPOなどの団体に寄付できる仕組みで、当基金は2022年よりチャリボンのパートナー団体に加入しています。8月に、チャリボンのメールマガジン「#Books For Nature 読み終えた本で、自然を支える vol.3 — 日本山岳遺産基金インタビュー」で紹介され、記事と連動したキャンペーンにより、多くのご寄付をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。



2025年も「高尾山の市“野市”」に出展 日本山岳遺産基金ブースにて募金活動を実施

10月25日に京王高尾線高尾山口駅前で「高尾山の市“野市”」が開催されました。このイベントでは日本山岳遺産基金の活動をパネルで紹介するブースが開設され、当基金が募金活動を実施。募金してくださった方にはオリジナル缶バッジを差し上げました。当日はあいにくの天候でしたが、ブースには多くの登山客が足を止められて合計8,981円のご支援をいただきました。ご協力いただき誠にありがとうございました。



多くの方から
ご支援いただき
ました

組織 (2025年12月20日現在)

■正会員

株式会社山と溪谷社
株式会社インプレスホールディングス

■会長

川崎深雪（株式会社山と溪谷社 代表取締役会長）

■副会長

二宮宏文（株式会社山と溪谷社 代表取締役社長）

■監事

中村健一（株式会社インプレスホールディングス）

■事務局長

永田 恵（株式会社山と溪谷社）

■特別会員

公益社団法人日本山岳会
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
日本勤労者山岳連盟

■法人賛助会員 (50音順)

味の素株式会社
株式会社アライテント
株式会社コロンビアスポーツウェアジャパン
株式会社システム・クリエート
株式会社総合サービス
株式会社トラベルギャラリー
有限会社穗高岳山莊
北海道地図株式会社
株式会社モンベル

■個人賛助会員
1名

■アドバイザリーボード (50音順)
大和田英子（日本勤労者山岳連盟全国理事、早稲田大学教授）
下野綾子（公益社団法人日本山岳会、東邦大学准教授）
田中文男（公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会名誉会長）
野口 健（アルピニスト）
元川里美（公益社団法人日本山岳会）

2024年度収支報告

前年度繰越金 13,167,613円

収入

会員費	500,000円
協力金等	0円
寄付金等	1,200,272円
その他	904,477円
収入合計	2,604,749円

支出

プロモーション費	146,950円
イベント費用	608,782円
基金運営費	121,276円
助成金	1,295,000円
支出合計	2,172,008円

収支 432,741円

次年度繰越金 13,600,354円

2023年度収支報告において、一部表記内容に誤りがございました。正しくは「次年度繰越金13,167,613円」となります。訂正してお詫び申し上げます。



日本山岳遺産基金事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105

神保町三井ビルディング 株式会社山と溪谷社内

<https://sangakuisan.yamakei.co.jp/> e-mail : kikin_info@yamakei.co.jp

発行=2025年12月20日